

# 世界遺産富士山にふさわしい 美しく品格のあるまちを目指して

富士宮市長(静岡県)

須藤秀忠



### 世界遺産富士山のあるまち

富士宮市は、富士山の西南麓に位置し、富士山そのものを御神体とする富士山本宮浅間大社の門前町として発展してきたまちである。

世界遺産「富士山」がもたらす、美しく雄大な自然環境や豊富な湧水、世界遺産の構成資産に代表される歴史的・文化的遺産など、富士山からのさまざまな恵みを受け成長を続けている。

気候は温暖で、豊富な湧水を活用した化学、機械などの工場が立地するとともに、郊外には水田や茶畑、牧草地などの田園風景が広がるなど、富士山の豊かな自然に包まれながら多様な産業がバランスよく共存している。

近年では「富士宮やきそば」に代表されるB級グルメの発信地として全国から注目を集めるなど、富士山周辺を代表する都市として存在感を増している。

また本市は、静岡県と山梨県を結ぶ交通の要衝であり、市域を南北に貫く国道139号は両県を結ぶ物流、観光の重要なルートとなっているが、その歴史をたどると、江戸時代初期に五街道が整備された際、東海道と甲州街道を結ぶ重要な脇往還として商品輸送に大きな役割を果たした「中道往還」と呼ばれる街道にたどり着く。

### 天下人信長ゆかりの街道

「中道往還」は、駿河国吉原から大宮・上井出・人穴・根原・本栖(湖)を通り、精進(湖)から右左口

峠を越えて甲斐国甲府に達するルートで、駿河と甲斐を最短距離で結ぶ全長約80kmの街道である。

駿河から海産物が甲斐に運ばれて行く魚の道(いさば道)として、甲州方面からは甲斐絹や竹細工などがこの道を通って駿河にもたらされたことから、本市周辺では甲州街道との呼称も残されている。

この街道を、山梨県側で「中道往還」と言うのは、河内路(身延道とも言う。富士川沿いを甲府から駿河に至る道)と若彦路(甲府から芦川・大石・鳴沢・人穴を通して上井出に出る道)の中間を通る道の意といわれる。

もともとは軍用路としての性格が強く、戦国時代に甲斐を支配していた武田氏が、この街道を通して駿河へ侵攻したとされている。



信長が滞在した際、腰掛けて富士山を眺めたとされている富士見石

また、その武田氏を討つため、天正10(1582)年には織田信長、徳川家康連合軍が甲斐に攻め入り、天目山で武田勝頼を討ち武田氏を滅ぼした。

戦いに勝利した信長は「駿河の



全国1300余りの浅間神社の総本宮である富士山本宮浅間大社

国を通り、富士を眺めて帰りた  
い」と、この「中道往還」を通じて  
富士山の雄大な姿を満喫するとと  
もに、白糸の滝、狩宿の下馬ザク  
ラなどを訪れ、浅間大社周辺に宿  
泊している。

その後、この戦いで功績を挙げ  
た徳川家康が、信長から駿河国を  
与えられ、家康により街道や宿場  
の整備が行われたことで、商業の  
流通路としてにぎわいを見せた。  
現在、道路としての機能は周辺  
の国道などに取って代わり、「中



雄大な富士山を背景に牛が草を食む姿は、本市を代表する景観の一つ

道往還」はすでに廃道となってい  
るが、かつて街道があった市北部  
の朝霧高原周辺では、古の時代に  
信長が眺めたであろう迫力ある  
富士山の姿を堪能することがで  
きる。

### 美しく品格のある まちづくり

本市では、平成25年の富士山世  
界文化遺産登録を契機に、世界遺  
産「富士山」のあるまちとしてふさ  
わしい、「美しく品格のあるまち  
づくり」を進めている。

富士山本宮浅間大社周辺では、

富士山の眺望の確保を目的とした  
建築物の高さ制限を行うとともに  
に、屋根や壁面の意匠、色彩の誘  
導を図るなど、良好な景観づくり  
を積極的に展開している。

また、今回紹介した「中道往還」  
の後継である国道139号におい  
ては、地域住民と行政が一体と  
なった景観づくりの活動が展開さ  
れており、定期的な草刈り、ゴミ  
拾いなどの環境美化活動や、景観

上支障となっている看板の撤去な  
どの取り組みにより、富士山周辺  
の景観の向上に着実な成果を上げ  
ている。

天下人をも魅了した富士山の景  
観を守り、末永く後世に引き継い  
でいくことは、本市に課せられた  
重要な使命であることを改めて認  
識したところであり、今後も「美  
しく品格のあるまちづくり」に一  
層まい進していく所存である。

## 中道往還

### 一口メモ

### 富士山信仰の参詣路

江戸時代の初期、元和年間  
(1615〜1624)に富士講が  
興り、富士山信仰が江戸の住人を  
中心に広まった。富士講に集う江  
戸とその周辺の住人たちは、信  
仰の対象である富士山を詣でるた

めに東海道を通り中道往還を目指  
した。

住人たちは、富士参詣の玄関口  
となった中道往還の宿駅・大宮(現  
富士宮市)の富士山本宮浅間大社を  
訪れ、湧玉池などで精進結齋を  
行った。大



宮には富士  
登拝を目指  
す参詣者の  
ための宿坊  
が立ち並び、  
門前町とし  
て大いにに  
ぎわった。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」